

報道関係者各位

株式会社 BCN
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-18-14 本郷ダイヤビル 6F
TEL 03-4236-5200 FAX 03-3818-3006

本件に関するお問い合わせは下記にお願いします。
BCN 田中繁廣
http://ranking.computernews.com/

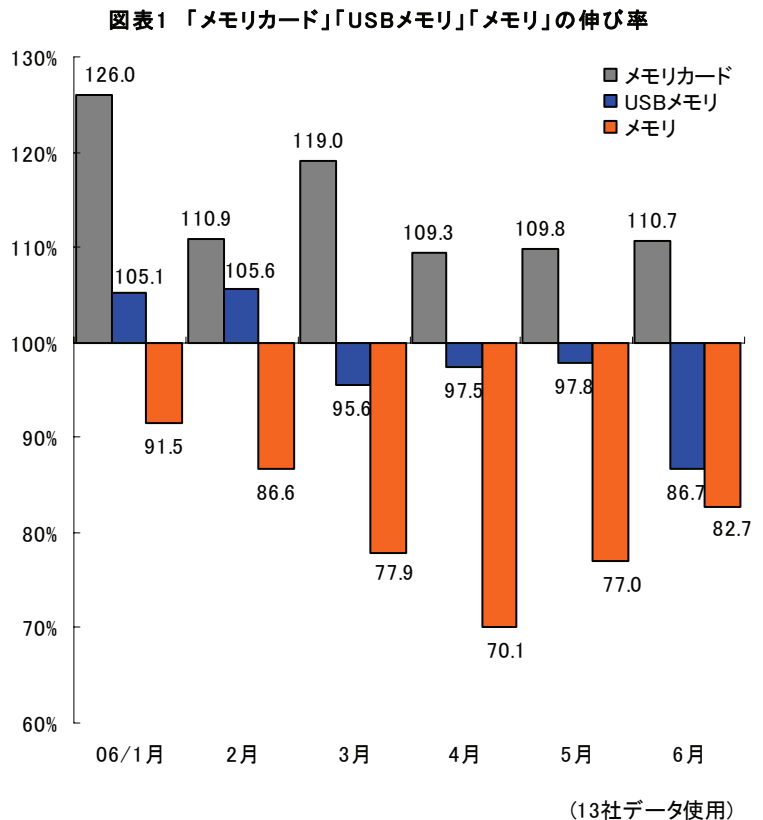
「メモリカード」、需要増も 1MB 単価は急落し 10 円割り込む
「メモリ」と「USB メモリ」、需要減で単価下げ止まり

株式会社 BCN(本社:東京都文京区、代表取締役社長 奥田喜久男)は、BCN ランキングデータをもとに、メモリ関連商品(メモリカード、USB メモリ、メモリ)の需要動向を分析。この結果、携帯電話やデジカメで需要が旺盛な SD カードをメインとした「メモリカード」は、1MB あたりの平均販売単価が急落。今年 1 月の 14.1 円に対して 6 月は 9.4 円と、半年間で 30% を超える下落幅となった。一方、PC での利用がメインとなる「USB メモリ」と、メインメモリまたは RAM とも呼ばれる「メモリ」は、いずれも需要は停滞し単価は下げ止まり傾向にある。

BCN は、全国のパソコン専門店、家電販売店 23 社(アマゾン ジャパン、アロシステム、エイデン、大塚商会、ギガスケーズデンキ、グッドウィル、サクセス、さくらや、上新電機、ストリーム、ソフマップ、ZOA、九十九電機、T・ZONE ストラテジィ、デオデオ、ニノミヤ、100 満ボルト、ビックカメラ、ピーシーデポコーポレーション、ムラウチ、ミドリ電化、ベスト電器、ラオックス=50 音順)2281 店舗(2006 年 6 月末現在)の日次配信データをデイリーで収集し配信する BCN ランキングを公表しています。このデータをもとに、PC リテール市場の動向を分析したニュース配信を行っています。

携帯電話やデジカメが主な用途となる「メモリカード」と、PC での利用がメインとなる「USB メモリ」「メモリ」の需要はやや対照的だ。メモリカードは年明け以降も好調で、台数は前年同期比で 2 ケタ前後の伸びを維持、6 月も 110.7%と需要増が続いている。これに対して、USB メモリは 3 月を境に停滞し、メモリはここ数か月連続して精彩を欠く。いずれも 6 月は 2 ケタのマイナスとなった(図表 1)。薄型テレビなど情報家電におかれて、PC は年明け以降需要が悪化。この煽りを受けて周辺機器の売れ行きは鈍く、メモリ、USB メモリにもその影響が現れている。

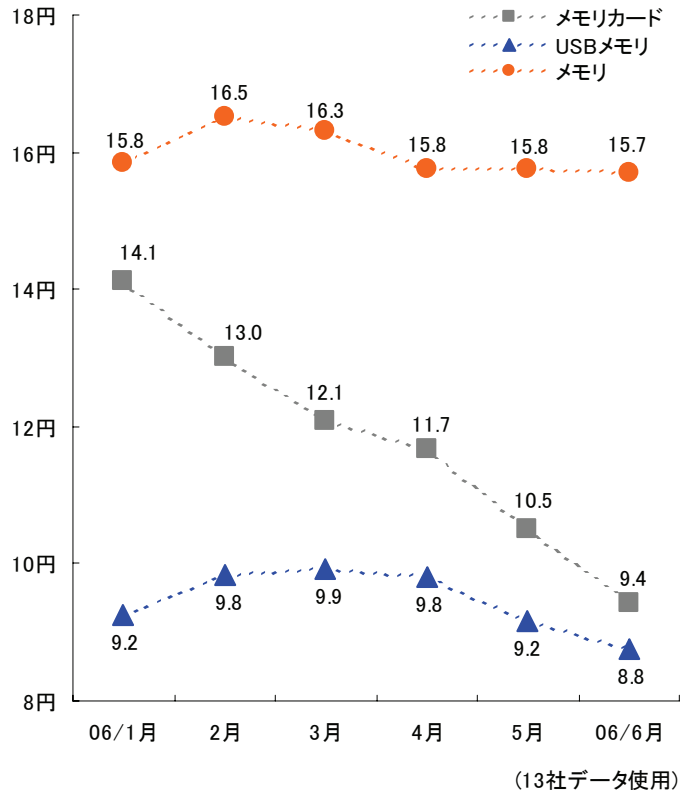
需要の変動は実売価格にも影響を及ぼす。ここ半年間における 1MB あたりの販売単価をみていくと、旺盛な需要増が続くメモリカードは月を追うごとに単価下落が顕著。今年 1 月は 1MB あたり 14.1 円であったが、6 月は 9.4 円とはじめて 10 円を割り込み、半年間の下落率は 30%を超えた。一方、USB メ



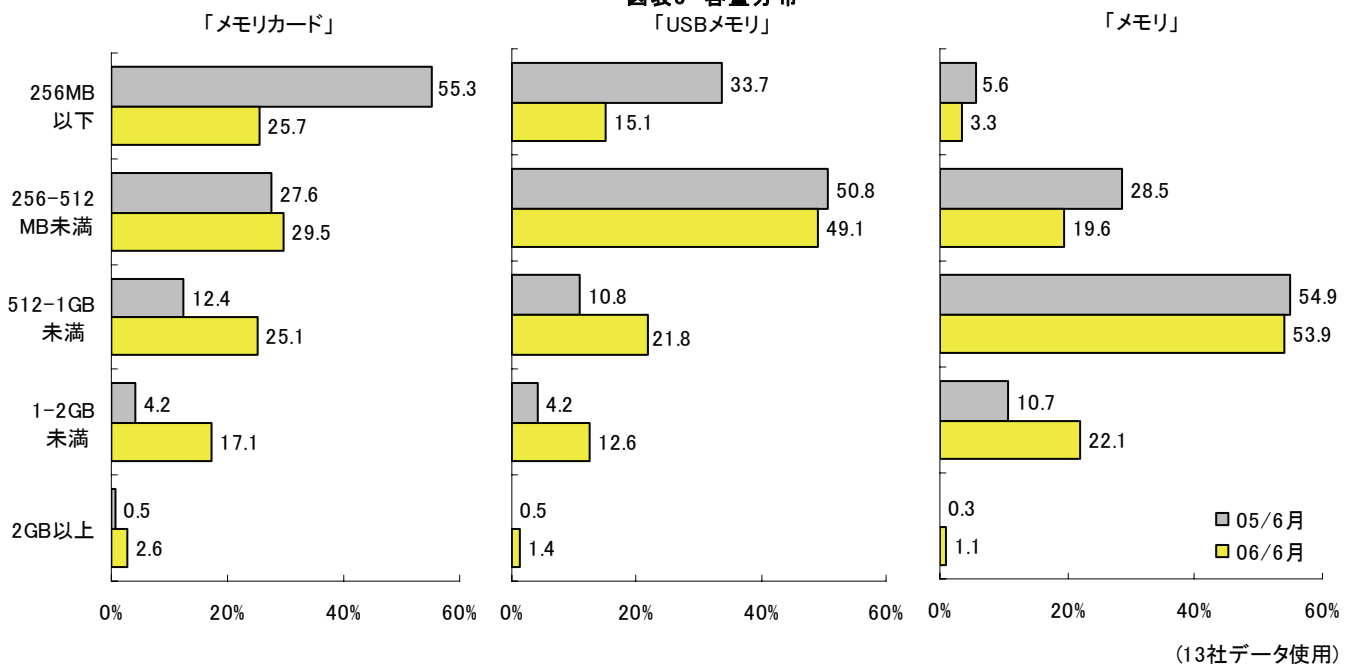
メモリとメモリの単価は、小幅な変動はあるがほぼフラット。USBメモリは8-9円台、メモリは15円台で推移している(図表2)。

いずれも大容量化が進みつつあるが、容量分布には差がある。メモリカードとUSBメモリはフラッシュメモリを使い、RAM/ROM機能を備えているのに対して、メモリはRAMのみに使う機構上の違いも大きく、フラッシュのなかでもやや差が生じている。今年6月の分布をみると、メモリカードは「256MB以下」「256-512MB未満」「512-1GB未満」がそれぞれ2割を超えてほぼきつ抗しているのに対して、USBメモリでは「256-512MB未満」が突出している。同じフラッシュであっても利用するデバイスが異なりマーケットサイズに違いがあること、USBメモリではUSBに対応したポータブルHDDの存在など競合商品の有無が影響しているとみていいだろう。一方、メモリについては「1-2GB未満」が倍増しGBへのシフトが強まりつつあるが、ボリュームゾーンは昨年6月と同様に「512-1GB未満」がメインとなっている(図表3)。

図表2 「1MB」の販売単価



図表3 容量分布



本リリースについて、今後メールでの配信をご希望の方がいらっしゃれば、対応させていただきます。
お名前・会社名をメールにてお知らせ下さい。

お問い合わせ先: release@bcn.co.jp